

鳥博セミナー

「ハリオアマツバメの繁殖生態と渡り研究の最前線」



写真：和賀大地さん(左・中)，今野 怜さん(右)

ハリオアマツバメは水平飛行速度が世界最速の鳥として比較的人気の高い鳥ですが、その生態はほとんどわかっていません。日本では主に北海道、本州中部以北に渡来する夏鳥です。ツバメに似ているところが多いですが、進化の系統はかなり異なります。20cmほどの全長には見合わない大きな樹洞で繁殖しますが、大きな樹洞は出来るのに長い年月を必要とするため、自然界では希少な生息環境です。本種の個体数は激減しており、その原因は繁殖環境の喪失や悪化である可能性が指摘されていますが、渡り経路の環境変化も影響しているかもしれません。

私たちは本種の繁殖生態や渡りの研究のために巣箱を開発しました。本種が好んで利用する巣箱を適切な場所に適切な管理で設置すれば、個体群の保全にも大いに役立ちます。私たちの10個の巣箱は毎年ほぼすべて利用されていますが、利用個体に意図しない悪影響が及ばないように、設置の仕方や管理方法は試行錯誤を続けています。巣箱では、天井にカメラを設置して繁殖生態を調査しているほか、繁殖個体を捕獲しての雛への給餌物調査、GPSロガーによる行動追跡調査やジオロケータによる渡り調査を進めています。数十km以上に渡る広大な行動圏での採食行動様式についても検討しています。2019年には初めてジオロケータの回収に成功し、越冬地がオーストラリア東部であることと、8の字を描く特殊な渡りの全経路を明らかにしました。今後、そのような経路になる原因も明らかにしていく予定です。

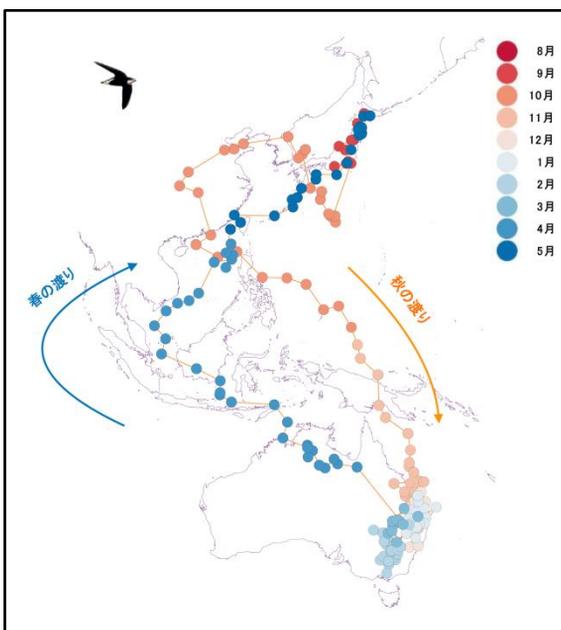


図. ハリオアマツバメの渡り経路の一例。

● 講師プロフィール



森さやか さん

酪農学園大学 環境共生学類 准教授。1978年札幌生まれ。博士（農学）東京大学。学生時代に十勝平野でアカゲラの個体群動態を研究していたため、同じく十勝平野の樹洞営巣種という点で、ハリオアマツバメとも縁があった。青年海外協力隊（マダガスカル 生態調査）、日本野鳥の会（自然保護室）、国立科学博物館などを経て2014年4月より現職。